

## 令和 8 年度 外国人留学生入試 B 日程【小論文】 解答例

### 問題 1

本文の要旨を 200 字程度でまとめなさい。

愛知県豊明市が、スマホの利用を 1 日 2 時間以内と呼びかける理念条例案を提出した。罰則はなく家庭での話し合いに委ねる方針だが、市民からは「なぜ条例で制限するのか」と否定的な意見が多い。香川県の同様の条例も実効性に乏しく、根拠となるデータの提示が欠かせない。スマホ依存の背景には、育児や地域環境の問題もある。単なる利用制限ではなく、子どもが安心して過ごせる地域づくりこそ自治体の責務である。(192 文字)

### 問題 2

スマートフォンの利用を制限する理念条例について、あなたは賛成か反対か、立場を明確にした上で、その理由を 400 字以内で述べなさい。

【模範解答①：賛成の立場】(388 字)

私は、スマートフォンの利用を制限する理念条例に賛成である。近年、子どもの長時間利用による睡眠不足、学力低下、視力の悪化、そして家族との会話の減少などが深刻な問題となっている。SNS や動画アプリの発達により、子どもが自分で利用時間を管理することは難しく、依存が進む傾向にある。自治体が条例を定めて注意喚起を行うことは、こうした問題を家庭任せにせず、地域社会全体で意識を高める意義がある。罰則がなくても行政が方針を明確に示すことで、家庭や学校で話し合いの機会が生まれ、保護者もルールづくりをしやすくなる。また、条例を通して大人自身もスマホとの付き合い方を見直すきっかけになるだろう。もちろん、利用時間を一律に制限するのは現実的でないが、目安を示すことで「考える契機」を与える点に意味がある。スマホ依存を防ぎ、親子が共に健全なデジタル社会を築くための第一歩として、この条例を評価したい。

【模範解答②：反対の立場】(383 字)

私は、スマートフォンの利用を制限する理念条例には反対である。行政が個人の生活にまで踏み込むことは、自由の侵害につながるおそれがあり、効果も疑問である。香川県で同様の条例が施行されたが、子どもの利用時間が大きく減る結果は得られず、実効性に乏しかった。家庭の事情はさまざまで、共働き家庭やひとり親家庭では、スマホが安全確保や連絡手段として欠かせないことも多い。時間で一律に線を引くことは、そうした家庭の実情を無視することにつながる。スマホ依存の背景には、遊び場や地域の居場所の不足、保護者の孤立などの社会的課題がある。自治体がすべきは制限ではなく、子どもが安心して遊び、人と関われる環境づくりである。また、学校では情報モラル教育やリテラシー指導を充実させ、子ども自身が主体的に判断できる力を育てることが必要だ。行政は規制よりも教育と支援で問題解決を目指すべきだと考える。